

インターポート

兵庫教育文化研究所だより

No.180

2017年2月20日

発行所 兵庫教育文化研究所
〒650-0004

神戸市中央区中山手通 4-10-8

日本と中国とのつながりは？ 平和教育部会 授業研究会

平和教育部会が、三木市の小学校において授業研究会をおこないました。六年生の「社会科」の授業で、「日本とつながりの深い国、中国」についての授業でした。日本から見る中国の印象と、中国から見る日本の印象がちがうことを知り、それぞれのちがいを認め、理解し合うことの大切さについて考えようという授業内容でした。



授業では、まず、結婚され日本国籍を取得した A さん、A さんの娘で昨年度まで市内の小学校に通学し今年度は中国の小学校に通っている B さん、A さんの母で中国から来日している C さんの 3 人からお話を聞きました。B さんは日本の学校と中国の学校のちがいを、A さんは日本と中国の生活様式や文化についてのちがいを中心にお話しされました。子どもたちはちがうことだけでなく似ていることも多いことに気づき、日本と中国との長いつながりを感じたようでした。

その後、C さんへインタビュー形式で「C さんは父を日中戦争で亡くされていることで、日本に対してどのように思われていたのか」や「今現在、どう思われているのか」を聞きました。C さんは、「日本に来るまでは日本が悪いと思っていたが、実際には日本人がとてもやさしく、イメージが変わった」ことや、「歴史のことは変わらない。前をむいて生きることが大切だ」といったお話をされました。話を聞いた子どもたちは、「自分ももっていたイメージがちがった」「日本だけが被害を受けているのではなく、日本もひどいことをしている。心の傷をいやせるようにしたい」といった感想を交流し、授業を終えました。



授業後の研究会では、ゲストを招いて直接話を聞く体験は「当事者性」を高め、「多面的なものの見方」を育てるために有効であること、現代の社会問題においても日々の教育実践のなかで立ち止まって考えることが大切であることを再確認しました。そして、単なる国際理解に終わらないために、日中戦争の実態を子どもたちに投げかけ、子どもたちがどう考えるのが大切だといった議論がされました。さらに、戦争

責任を引き継ぐとは、過去の過ちを二度と繰り返さないようにするために、まず教職員が事実をしっかりと学習し、子どもとともに考える教育実践をしていくことだという思いを共有しました。

今後も平和教育部会では、史実と真実を大切にした授業をめざして研究を続けていきます。

(本授業の指導案は「組合員専用ページ」に掲載しています。ID、パスワードは各支部へお問い合わせください。)